

年 次 報 告 書

令和元年(2019年)度

4年間の学びを、力に変える大学。



(目次)

巻頭言	1
1. 沿革	2
2. 歴代管理職	3
3. 組織（令和元年度）	3
4. 地域連携センターの位置づけ	4
5. 令和元年度実績	6
6. 今後の展望	14
（別表）事業報告一 覧	16

巻 頭 言

「地域連携センター」の発足から3年が経過しました。この間、時代は平成から令和へと移り変わりましたが、当センターは大学の地域連携、地域貢献の総合窓口として、地域社会、行政、企業との連携を深め、地域の発展に寄与する取り組みに努めてきました。試行錯誤しながらも、そうした「地域の伴走者」としての取り組みが軌道に乗り始め、各種事業において一定の実績、成果を上げることができたように思います。

昨年度の主要業務を簡単にふり返ると、産学官連携及び地域・社会貢献に関する取り組みでは、本学を含む11大学・短大で組織する「ちば産学官連携プラットフォーム」において本学生涯学習センターを会場に「ちば学リレー講座2019」が開講となりました。プラットフォーム参加大学の教授陣が千葉（市）に関する研究や話題を、さまざまな側面から紐解く講座として好評を博しました。そして、このような取り組みも含めて「ちば産学官連携プラットフォーム」の活動が私立大学等改革総合支援事業のタイプ3（地域社会への貢献：プラットフォーム型）に2年連続で選定されるに至りました。本学はこれに加えて、同改革支援事業のタイプ1（特色ある教育）でも選定されており、同一年度に2つの改革総合支援事業の選定を受けることができたことは、本学における教学改革並びに地域連携、社会貢献の取り組みが確実に前進したことを示しているものと思われます。

生涯学習講座については、駅前の生涯学習センター、大学キャンパスを中心に講座を展開、受講生の拡充を図ることに努めましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、年度末の3月から当面の間、講座の休講を余儀なくされています。

ボランティア活動については、通算で9回目となる「宮城ボランティア」を継続実施しました。これに加えて、昨年度は「宮城ボランティア」参加経験をもつ本学学生2名が独立行政法人国立青少年教育振興機構の法人ボランティアとして幅広く活動したことが評価され、同機構より表彰を受けるという嬉しいニュースもありました。

地域連携活動としては現役学校教師を対象に「英語教師授業力ブラッシュアップセミナー」（8月）を3年連続で開講しました。「パラスポーツ交流会」、「車いすフェンシング競技ボランティア養成研修」も継続的に開催されています。「東京2020オリンピック・パラリンピック」は1年延期となりましたが、これまでの取り組みは大学及び個人の大きな財産として将来に受け継がれていくものと確信するところです。

目下のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、当初計画していた活動を制限せざるを得ない状況ではありますが、事態収束後の活動再開に向けて準備を進めて参ります。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます次第です。

令和2年4月

敬愛大学地域連携センター長

中山 幸夫

1. 沿革

(生涯学習講座)

平成18年	4月	敬愛大学生涯学習講座の開講準備を、総務課で開始。
	7月	生涯学習講座募集開始、全24講座を開設。
	9月	生涯学習講座開講、年度末までにのべ751名が受講。
平成21年	4月	事務分掌再編に伴い、所管部署名が大学運営室に変更される。
平成28年	4月	講座、受講者情報の管理および受講料収納の円滑化のため、運営基幹システム「Smart Academy」および受講料のコンビニエンスストアでの支払決済システムを導入。
平成29年	4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を大学運営室から移管。

(ボランティア活動、地域連携事業)

平成21年	4月	事務分掌再編に伴い、教務学生課学生係が学生支援室に改組。
平成23年	3月	東日本大震災が発生、有志学生によるボランティア活動が活発化。
平成23年頃から		学生支援室において学生の正課外活動の活性化のため、ボランティア活動や地域の町内自治会・商店街、稲毛区役所などとの関係を深めはじめる。
平成23年	9月	教員主導による「宮城ボランティア」が開始。
平成27年	3月	キャリアセンターの主導で、千葉市の間で「地域経済活性化に関する連携協定」を締結
平成27年	5月	学生支援室内に、ボランティアセンターが設置される。
平成28年	4月	「宮城ボランティア」の主管が、ボランティアセンターに移管。
平成29年	4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を学生支援室から移管。

(地域連携センター事業)

平成29年	4月	地域連携センターの新設に伴い、大学運営室、学生支援室およびIR企画室(現:IR・広報室)から関連事業を移管。 なお地域連携センターは、IR・広報室と同様、学長直属の部署として設置された。
平成30年	8月	「ちば産学官連携プラットフォーム」設立に伴い、副会長校を拝命。 あわせて地域支援連携事業部会、生涯学習連携事業部会に参加。 (生涯学習部会では部会長を拝命)
平成31年	2月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ5) 選定
令和2年	3月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ3) 選定

2. 歴代管理職

平成29年4月1日

地域連携センターの新設に伴い、

センター長に、小阪新造（前・法人運営室員）が就任。

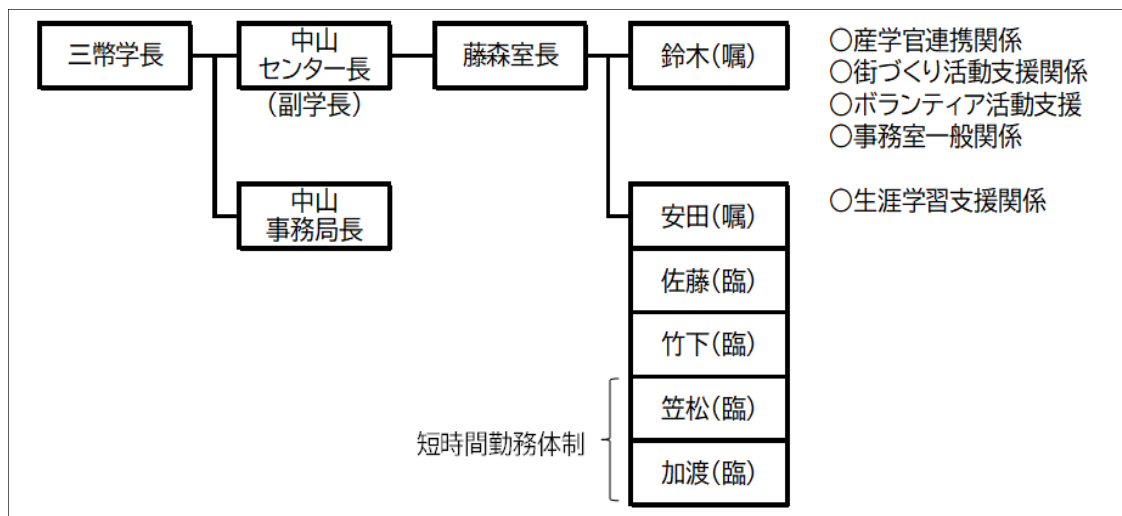
事務室長に、藤森孝幸（前・学生支援室主幹）が就任。

平成31年4月1日

センター長に、中山幸夫（副学長、経済学部教授）が就任。

現在に至る。

3. 組織（平成31年度）



センター長 中山幸夫（副学長、経済学部教授を兼務）

事務室長 藤森孝幸

室員（嘱託） 安田勝也、鈴木直人

室員（臨時職員） 佐藤真理子、竹下典子、加渡一正、笠松宏

なお生涯学習支援関係のため、生涯学習委員会（委員は両学部若干名）を設置している。平成31・令和2年度は、経済学部1名（高木朋代教授）と国際学部1名（三幣真理専任講師）が各々の学部において選出されている。（平成31年度は教授会報告資料での報告に留まり、実際の委員会は開催しなかった。）

4. 地域連携センターの位置づけ

①地域連携センター規程(平成29年4月1日施行)

◆第2条(目的)

センターは、敬愛大学の地域連携、地域貢献の総合窓口として、地域社会、行政、企業との連携を深め、地域の発展に寄与するとともに、本学の教育研究機能の充実を図ることを目的とする。

◆第3条(業務)

センターは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) 産学官連携及び地域・社会貢献に関する事項
- (2) 生涯学習・公開講座に関する事項
- (3) 地域行事・ボランティア活動等の情報統括に関する事項
- (4) 地域連携に関わる大学内の連絡調整および窓口業務に関する事項

②平成31年度部門別事業計画

項 目	2019年度目標	詳細(実施方法)
重点基軸2:新たな総合学園へ ～オール敬愛～		
<u>ボランティア活動の奨励と推進</u> [地域連携センター]	■サービスラーニングの充実 と学生満足度の向上	・ <u>宮城ボランティアの継続と学びの質の深化</u> ・ <u>ボランティア活動への参加学生の増加</u> と自主的な活動の奨励 ・ <u>ボランティア活動の推進学生リーダー</u> の育成
重点基軸3:地域との関わりを重視し、愛される学園運営をすること ～地域の伴走者～		
地域連携・地域貢献 [学生部委員会・学生支援室] [地域連携センター]	■地域と連携した貢献活動 ■生涯学習講座の充実と受講者数の増加(3,000名) ■県内高等学校との連携・協働 ■千葉市域における産学官連携の共創	・稲毛区と連携した学校行事の開催 ・ <u>近隣地域の諸行事(夏祭り、夜灯など)への学生の派遣</u> ・ <u>生涯学習センターの講座充実</u> ・ <u>高大接続への取組の強化</u> (「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」) ・「 <u>ちば産学官連携プラットフォーム</u> 」を通じた千葉区域における産学官連携事業の推進

③平成31年度組織目標

設置3年目となる地域連携センターは、「地域の伴走者」として高まるニーズを的確に捉え、与えられた環境の下、最善の組織実現をめざす。具体的には、

1. 学生のボランティア意識の涵養により一層努め、正課外におけるボランティア学習、サービスラーニングの機会をより多く提供する。特に「宮城ボランティアを含む防災教育」と「東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成」のさらなる充実に努める。
2. 生涯学習事業のさらなる充実を推進し、可能な限り単年度黒字にすることに引き続き注力する。あわせて総合地域研究所及びちば産学官連携プラットフォーム等の事業と連携して、人生100年時代によりふさわしい事業内容を実現する。
3. 学内の他部署はもとより、学園傘下の各学校や学外の関係機関とのコミュニケーションの充実に一層努め、事業の充実を図る。
4. 所管業務に遺漏無きよう業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが具体的な自己啓発に努める。

(補足)

理事長・学長から平成29年度中に与えられた中期的目標である「学園大の地域連携業務を行う組織」への将来の発展的組織拡張に向けて、「オール敬愛」の地域連携業務担当部署としての意識ある取組を行う。

5-1. 令和元年度実績(生涯学習講座)

① 講座数、受講者数（ビジネス講座、ちば学リレー講座、特別講座を除く）

講座数			2018年度	2019年度	前年比
前期	有料講座	計画	197	260	+63講座
		開講	144	197	+53講座
		開講率	73.1%	75.8%	+2.7%
	無料講座	開講	4	5	+1講座
	小計	開講	148	202	+54講座
後期	有料講座	計画	205	210	+5講座
		開講	152	157	+5講座
		開講率	74.1%	74.8%	+0.6%
	無料講座	開講	3	7	+4講座
	小計	開講	155	164	+9講座
年間	有料講座	計画	402	470	+68講座
		開講	296	354	+58講座
		開講率	73.6%	75.3%	+1.7%
	無料講座	開講	7	12	+5講座
	小計	開講	303	366	+63講座

受講者数			2018年度	2019年度	前年比
前期	有料講座	申込者数	984名	1257名	+273名
		取消*	52名	73名	+21名
		受講者数	932名	1184名	+252名
	無料講座	受講者数	56名	65名	+9名
	小計	受講者数	988名	1249名	+261名
後期	有料講座	申込者数	1001名	1079名	+78名
		取消*	53名	110名	+57名
		受講者数	948名	969名	+21名
	無料講座	受講者数	49名	84名	+35名
	小計	受講者数	997名	1053名	+56名
年間	有料講座	申込者数	1985名	2336名	+351名
		取消*	105名	183名	+78名
		受講者数	1880名	2153名	+273名
	無料講座	受講者数	105名	149名	+44名
	小計	受講者数	1985名	2302名	+317名

*取消：受講生が十分集まらず、閉講したため受講できなかった人数。

令和元年度は前年度を上回る年間500講座の計画をめざし、実際には470講座を開設し（平成29年度は287講座、同30年度は402講座）たが、開講率は有料講座では75.3%（無料講座も含めると82.8%）であった。年間の受講者数は前年比で317名増加し、2,300名の大台を突破することができた。

なお本表では明示していないが、有料講座における1講座あたりの受講生数は5.9名（前年度比-0.2名）で、あまり多いとは言えないのが悩みの種である。

当センターの受講生は同一日時講座、同一講師へのリピート率が高いことから、同一講師で他の日時にも講座を増やしたクラス、また新規に確保した講師のクラスは、講座の魅力を浸透させるのに時間がかかる傾向が強い。このような傾向を考慮しながら受講生の希望や志向を考慮して講座の企画を行っているが、受講申込者数が概ね5名に達しない場合、費用対効果の観点から閉講することがある。

② 受講料収入

受講料収入	2018年度	2019年度	前年比
前期	¥ 14,156,355	¥ 15,228,899	¥ 1,072,544
後期	¥ 14,139,695	¥ 13,781,165	¥ -358,530
年間	¥ 28,296,050	¥ 29,010,064	¥ 714,014

平成29年度2,257万円、30年度2,830万円だった収入は、今年度は2,901万円に達することができた。しかし新型コロナウイルスの感染拡大を受け後期3月に全講座を閉講したため、204万円を受講生

に払い戻したことから、実質収入は前年度を下回ることとなった。

なお消費税増税に伴い検討していた受講料の見直しは見送り、令和2年度から行うこととした。値上げ幅は3～5%程度を目安とする見込みである。

③ 生涯学習センター（駅前センター）の周知定着

平成30年4月1日に生涯学習センターをこみなと稲毛ビルの6階から3階に移転した。これを機会に生涯学習センターウェブサイトの一新、京成バス及び千葉海浜交通のJR稲毛駅発着便車内アナウンスでの周知を継続している。また新聞折り込み形式のチラシ配布を見直し、「ちば市政だより」（千葉

●気象観測講座 ●工作、アクセサリー製作
●科学工作教室 ●空き缶顕微鏡製作
●千葉県の歴史で自由研究 ●パルンアート ほか
●プログラミング (SCRATCH)

★通年講座(英語、書道、パソコン学習など)、未就学児専門講座(英語、英語絵画)も開講しています。

お申し込み・お問い合わせは
0120-077-420
https://lifelong.u-keiai.ac.jp

市広報：市内全戸にポスティング配布されている) の3月

号と9月号に広告を打つことで、市民への緩やかな浸透を目指す取り組みを始めた。なお広告はこの他、「千葉市おしごと感動体験 ワクワワークデー」の参加者募集リーフレットにも、キャリアセンターの依頼に応じてキッズ講座の広告を掲載した。

人生100年時代の生きがいが見つかる
敬愛大学 生涯学習センター
国語・教養講座 人生を豊かにする趣味講座 社会人向け講座 キッズ講座など

年間500講座！
2020年度前期講座申込受付中！

0120-077-420 FAX:043-256-3420
敬愛大学 生涯学習センター
〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台2-3-12 こみなと稲毛ビル3階 敬愛大学 生涯学習センター

④ちば産学官連携プラットフォーム「ちば学リレー講座」

平成30年8月に発足した「ちば産学官連携プラットフォーム」には、千葉市圏の私立大学・短期大学11校が参画している。本学はこのプラットフォームで生涯学習連携事業部会の幹事校に任じられていることから、同プラットフォーム事業のひとつである「ちば学リレー講座」を本学生涯学習センターで開講、会場の無償提供および申込受付を請け負った。

平成31年度は年間8講座が提供され、プラットフォームからの

千葉 11大学の教授陣が登場

●ちば学リレー講座●
①5月1日(土) ちばの「健康づくり」
②6月1日(土) ちばの「市民活動」
③6月29日(土) ちばの「健康づくり」
④7月27日(土) ちばの「地域デザイン」
⑤8月31日(土) ちばの「くらしと介護」
⑥9月1日(土) ちばの「市民活動」
⑦10月1日(土) ちばの「健康づくり」
⑧11月1日(土) ちばの「地域デザイン」
⑨11月13日(土) ちばの「くらしと介護」
⑩11月21日(土) ちばの「市民活動」
⑪12月1日(土) ちばの「健康づくり」

報告によると8講座にのべ119名が受講したとのである。1回あたり14.9名の受講者数ということから、生涯学習センターの収入にはならないものの、結果として敬愛大学が生涯学習事業に熱心に取り組んでいることを市民の皆様知っていただく機会となった。

2019年度 前期日程 年間8回開催、各回とも土曜日13:30~14:50(90分間)です。

5/18(土) ちばの「健康づくり」
6/29(土) ちばの「市民活動」
7/27(土) ちばの「地域デザイン」
8/31(土) ちばの「くらしと介護」

④ 運営スタッフの見直し

生涯学習センターの講座開設時間はいわゆる「9時5時」とはいかず、日によって朝は7時30分から、夜は21時すぎに及ぶものもあるため、直接雇用のスタッフでの運用が困難であった。そのため平成28年10月から人材派遣会社から3名の女性スタッフを派遣していただいていた。これに伴う高い人件費を削減するため、2名のシニア短時間臨時職員(加渡正一氏、笠松宏氏)を引き続き雇用すると同時に、新たに公募により竹下典子氏をフルタイム勤務の臨時職員として採用した。これにより人材派遣社員2名は、平成31年3月末日を以て契約満了とした。

5-2. 令和元年度実績(ボランティア活動、地域連携活動)

① 概要

本学の学生はボランティア活動への関心が高く、当センターが主催・幹旋する活動のみならず、大学内外の諸団体における自主的な活動も多数行われている。特に具体的な活動に結びつかなくとも、多くの学生が相談に来てくれることには頭が下がる思いである。またボランティア活動だけでなく、地域の社会貢献活動にも熱心に参加する姿が見受けられ、それらの経験を日々の正課活動、正課外活動にも活かしているのは、高く評価したい。

地域連携センターとして取り組んだ事業では、現役学校教師向けセミナーである「英語教師授業力ブラッシュアップセミナー」、「パラスポーツ交流会」(千葉県共催)では、様々な皆様から評価された。

さらに千葉県圏大学によるコンソーシアム組織「ちば産学官連携プラットフォーム」での各事業が具体的に進むだけでなく、オリンピック・パラリンピックの機運醸成に繋がる様々な事業を複数の大学や団体とのコラボレーションによる事業は高い評価を得ることができた。



(教育学術新聞11月15号掲載)



(千葉県夢チャレンジ体験スクール)



(いなげボッチャカップ)



(敬愛大学パラスポーツ交流会)



(ボランティアトライアル2019)

②主な事例

◆パラスポーツの機運醸成と普及協力

千葉市内でオリンピック3種目、パラリンピック4種目が開催されるのを機に、千葉市が推進する「パラスポーツの普及」に、敬愛大学も全面的に協力している。本学での「パラスポーツ交流会」（千葉市、競技団体共催）は3年



目となり、今年度は車いすフェンシングをとりあげ、大学祭

の中で実施した。また「パラスポーツフェスタちば2019」（千葉県・千葉市・NHK千葉放送局共催）や「Go! Together!」（千葉市主催）等のパラスポーツ事業に、多くの学生が実行委員、ボランティア、選手として参加してくれたことは、特筆すべき事項である。



◆他大学等との連携による新事業

特筆すべきは、帝京平成大学（馬場宏輝准教授）の呼びかけに応え、東京パラリンピックの公式種目である「車いすフェンシング」の競技ボランティア養成に取り組んだことである。日本国内ではまだ普及が進まないパラリンピック種目では、ボランティアといえど国際大会としての議力を求められることから、国内競技団体である「NPO法



人日本車いすフェンシング協会」の指導を受けながら、チーム千葉（帝京平成大学、敬愛大学のほか、千葉大学、植草学園大学など）が学生有志を集めて競技ボランティアの養成を行ってきた。本学では3月現在14名の学生が研修を継続している。また藤森室長は、組織委員会から国内技術委員（NTO）に委嘱される予定である。

この他、千葉商科大学（和田義人教授）からの呼びかけに応じた「パラスポの『輪』フォーラム」、神田外語大学（篠村勉部長）からの呼びかけに応じた「ボランティアトリアル2019『NIPPON体感! WA WA WA 和×話×輪』」（いずれも千葉県主催）には、実行委



員を含む多くの本学学生が参加する機会を得ることができた。また本学の提案を元に稲毛区役所が企画した「第1回いなげボッチャカップ」にも、学生が運営や選手で多数参加してくれた。



ちば産学官連携プラットフォーム（地域支援部会）でも、「大賀ハスまつり」（千葉市主催）でのポッチャ体験会、「レッドブル・エアレース」、「車いすラグビー見学体験会」などの事業が行われ、多くの本学学生に参加と経験の機会を提供することができた。

◆稲毛区、稲毛区内町内自治会活動への参加

- ・稲毛区民まつり 学生が実行委員会に参加（学生支援室事業）
- ・区内大型イベントの参加 稲毛せんげん通りまつり、稲毛あかり祭「夜灯」等
- ・町内自治会、商店街、コミュニティセンター事業への参加
穴川町会、稲毛東5丁目自治会、穴川商栄会（学友会事業）、
シャルム西千葉自治会（学友会事業）等
- ・区等主催行事への参加 穴川コミュニティセンター避難所
開設・運営訓練 等
- ・講演受託 穴川町会防災訓練、タウンハウス稲毛防災講演会、NPO法人まち
づくりスポット稲毛 防災イベント「まなぼうさい」での特別講義
（小学生対象）

※今年度は、新たに防災に関する講演の受託が4件（うち1件はキャンセル）あった。今年度は当初防災に関する映画会の開催を検討していたが、よりきめの細かい講演活動により、防災意識の涵養という当初の目的を果たすことができた。



◆宮城ボランティア2019

今年度は「いま、ここ、じぶん」をテーマに、9月7日～9日の2泊3日で開催、本学学生37名と本学卒業生1名が参加した。第1回から続く尚絨学院大学（宮城県名取市）とのご縁で、昨年度に引き続き西南学院大学（福岡県福岡市）も加わってのボランティア学習会が実現した。今年度は初めての訪問となる旧雄勝町で佐藤麻紀さん、昨年に続き大川小学校で鈴木典行さん、南三陸町で佐藤良夫さん、名取市閑上では丹野祐子さん、長沼俊幸さんからお話を伺う機会を得た。（詳細は、別途報告書あり）

なお最終日の9月9日は台風15号が千葉市に上陸したため、千葉に帰るバスも迂回を余儀なくされた。途中で一部学生を下ろしつつ、1時間遅れ（21時過ぎ）に稲毛に帰着することとなった。被災地支援のあり方を学びに出向いた私たちが、支援や心配をされる側になってしまったことに驚かされる結果となった。



◆千葉県夢チャレンジ体験スクール「キャリア教育しごと体験キャンプ」

昨年度までに続き、本学学生チューター8名が中高生約40名の指導に熱心にあたってくれた。特に夏季休業中に5日間連続（合宿2日間、企業等での仕事体験2日間を含む）での



学生チューターの活動はめざましいものがあり、県教委や参加中高生からの評価は、極めて高いものであった。

事業への協力は、次年度も継続していく予定だが、5日間のプログラムは県側で見直しとなり、宿泊を伴わない4日間（1、4日目は本学で開催）となる見込みである。



◆第3回英語教師授業力ブラッシュアップセミナー

3年目を迎えた今年度も英語教育開発センターの協力を得て、生涯学習講座の発展形として企画。「英語教育の抜本的改革に向けて教員に求められること～学習指導要領の改訂を踏まえて」をテーマに、小学校教員向け、中高教員向けの2日間の日程で開催した。

参加者は千葉県内を中心に参加者は2日間でのべ170名にのぼった。首都圏はもとより全国から参加者があり、また現役教師だけでなく教育委員会指導主事や本学卒業生の参加も見られた。参加者や講師からは、本学学生参加者の意欲や積極性に高い評価をいただいた。



◆県内高等学校との連携事業

昨年度提携調印に至った千葉市立稲毛高校とは、今年度も「総合的探求学習の時間」の指導助言やグローバル企業見学会などに年間を通じて協力した。1年生の「総合的探求学習の時間」には経済学部八木准教授、佐竹准教授、藤森室長を、2年生の「総合的探求学習の時間」には国際学部の佐藤准教授、三幣専任講師をそれぞれ派遣した。またグローバル企業見学会では、キャリアセンターの協力を得て成田国際空港株式会社（NAA）の見学会を実施した。

一方千葉県立君津高校とは、今年度も「グローバル人材プロジェクト」の一環として留学生の派遣事業で協力、3カ国6名の留学生を1年生の各教室に入れ、プレゼンなどを通じた交流を図った。



◆台風等による千葉県内の被災に関する取り組み

令和元年房総半島台風（台風15号）、令和元年東日本台風（台風19号）および令和元年10月25日の大雨（台風21号由来）が相次いだ千葉県では、まれに見る被災状況となった。大学は被災を免れたが、学生支援室の調査によれば学生やその家族・親戚宅の被災、交通遮断等を被った学生が複数名いたとのことである。

当センターではこれらの災害に対して、①学生有志による募金活動への助言、②被災地支援ボランティア活動の紹介、③「ボランティア活動保険」掛金の大学負担、④文科省通達に基づくボランティア活動の奨励（単位付与等）、⑤台風19号による帰宅困難学生支援（校内宿泊）に対応した。このうち①については18,810円の浄財を鋸南町長に学生が手渡した。③については申し出のあった10名に掛金を支払い、④では9名が「ボランティア活動」の単位認定を受けた。

なお当センターとしての活動ではないが、藤森室長は千葉県災害ボランティアネットワーク連絡会の派遣依頼を受け、計10日間災害ボランティアセンターの県本部および佐倉市、長柄町の現場で災害ボランティア活動の全般的な支援に従事した。



（1年生有志による募金活動）



（佐倉市災害現場での学生活動）

◆「ちば産学官連携プラットフォーム」事業と文科省私立大学等改革総合支援事業（タイプ5）

昨年度発足した「ちば産学官連携プラットフォーム」では、本学は「生涯学習」と「地域支援」の2事業部会に参画、生涯学習の部会では幹事校を務めている。当センターとしては生涯学習部会の重点事業である「ちば学リレー講座」を中心となって運営、全8回でのべ119名の受講者を得た。また「ちば学リレー講座」が「第1回ちば講座アワード」（さわやかちば県民プラザ主催）で入選するなど注目を得ることができたことで、ちば産学官連携プラットフォームの認知度アップに貢献できたものと考えている。



なお本プラットフォームを基礎として、文部科学省私立大学等総合改革支援事業（タイプ3）には、11大学・短期大学のうち、植草学園大学・短大、神田外語大学、敬愛大学、淑徳大学、千葉経済大学・短大、千葉明德短大、帝京平成大学の9校が申請に取り組み、2月27日付で採択された（本学は今年度タイプ1も採択された）。本学がタイプ1・3

採択により獲得した補助金額は、一般補助加算分も含めて23,311千円となった。

◆総合地域研究所シンポジウムへの協力

7月13日(土)に開催された今年度の総合地域研究所シンポジウム「東京2020オリンピック・パラリンピックで千葉をどう変える?」には、研究所からの依頼を受けて企画段階から協力した。オリパラに関するテーマであることから、講演者の選定にあたり、高橋秀文氏(日本障がい者スポーツ協会常務理事、日本パラリンピック委員会副委員長)と馬



場宏輝氏(帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授)の両名を紹介し、当日ご登壇いただくことができた。またプログラムの中では藤森室長が「大学生のパラスポーツ体験への取り組み～敬愛大学を例に」の演題で報告をさせていただいた。またその後に行われたパネルディスカッションには、熊谷俊人千葉市長や各講師と共に参加する機会を得た。

6. 今後の展望

中山センター長と藤森室長で意見交換を行い、令和2年度の組織目標および職責表を以下の通り定めた。

①組織目標

設置4年目となる地域連携センターは、「千葉敬愛学園ビジョン2030」に改めて明記された「地域の伴走者」として高まるニーズを的確に捉え、与えられた環境の下、最善の組織実現をめざす。具体的には、

1. 東京2020大会を含むボランティア活動の充実に加え、先進的な取組を行っている大学の情報を得ながらサービスラーニングの充実に関する検討を行う。
2. ちば産学官連携プラットフォーム事業で担当する「生涯学習」「地域支援」の2部会での活動に特に注力し、同時に千葉商工会議所とのパイプ役としての取組を継続する。結果、改革総合支援事業の3年連続採択に積極的に寄与する。
3. 大学だけではなく短大の社会貢献事業を把握し、キャンパス統合を見据えた「大短一体」の取組のための下地づくりに努める。
4. 生涯学習センター事業の収益向上と同時に、資格試験対策講座などリカレント教育講座の充実にも努める。また他大学等のリカレント教育事情の把握に努め、本学生涯学習センターの活性化に資する。
5. 所管業務に遺漏無きよう業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが具体的な自己啓発に努める。

(補足) 1～4は、「中期計画'24(2020-2024)」の当年度事業計画と同じである。

②職責表

管理職		室員 (専任職員、臨時職員)	担当業務
中山 センター長 (副学長)	藤森室長	鈴木紀	○産学官連携関係 主務者：藤森 ・千葉県、千葉市役所、稲毛区役所との連携事業 ・ちば産学官連携プラットフォーム事業(生涯学習連携事業部会幹事校) ・文部科学省私立大学等総合改革支援事業タイプ3申請 ・宮城ボランティア、大学間連携災害ボランティアネットワークに関する事業 ○街づくり活動支援関係 主務者：藤森 ・稲毛の街の諸行事の運営参画(夜灯、せんげん通りまつり、避難所運営委員会等) ・東京オリンピック・パラリンピック組織委員会との連携 ○ボランティア活動支援 主務者：鈴木紀、副務者：藤森 ・学生のボランティア活動支援、紹介・斡旋、指導助言 ・ボランティア関係団体(社会福祉協議会、ボランティア団体等)との連絡調整 ・「夢チャレンジ体験スクール」実務 ○事務室一般関係 主務者：鈴木紀 ・予算実績管理、備品管理、経理処理等 ・ちば産学官連携プラットフォーム事務局担当 ○生涯学習支援関係 主務者：安田、副務者：鈴木紀 生涯学習センター事業の運営 ・講座の企画、受講生募集 ・受講生データ管理(システムによる管理) ・講座の運営(学外講座における引率等も含む) ・駅前センターの清掃、防火点検 ※防火管理者(藤森室長)の指示による ・貸主(こみなと興産)との連絡調整
		安田(嘱) 佐藤(臨) 竹下(臨) 笠松(臨) 加渡(臨)	

なお自己点検・評価委員会で取りまとめる年報（アニュアル・レポート）では、「課題9：社会連携・社会貢献」に、次の点が「次年度への課題」として挙げられている。

「学園ビジョン2030」、「敬愛大学ビジョン2030」および2020年度からの新中期経営計画に沿って、

- （1）近い将来のキャンパス統合を見据えて、「大・短一体」の取組のための下地を作る。
- （2）「ちば産学官連携プラットフォーム」を活用した、社会貢献、生涯学習、地域連携事業を推進する。
- （3）総合改革支援事業（タイプ3）の申請・採択を果たせる平素からの取組の力をつける。
- （4）総合地域研究所は、総合テーマ「災害に強いまちづくり」のもと、3つの研究会およびシンポジウムを実施し、地域貢献に努める。

令和2年度はこれらの課題を克服すると同時に、他部署、他大学、関係機関と連携して、より深みのある地域との連携、社会貢献の充実を図り、「地域の伴走者」としての確たる実績を積み重ねていきたい。

なお新型コロナウイルス感染症の拡大により、大学でも対面型授業が当面できない状況にあることから、学生が参加する形での各種事業の実施は難しい状況にある。また生涯学習事業もいつ再開できるかは見通しが立っていない。しかし冷静に推移を見守りながら、これまで積み重ねてきた取り組みを拡充できるように準備を怠らないようにしたい。

以上

地域連携センター 事業報告 (令和元年度)

敬愛大学地域連携センター

【主催事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係機関	参加人数
主催事業	第3回英語教師授業力 ブラッシュアップセミナー	8/19・20	千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県私立中学高等学校協会	141名
	宮城ボランティア2019	9/7～9	尚絅学院大学、西南学院大学ほか	37名
	東京2020パラリンピック 競技ボランティア研修(3回開催) ☆	6/27・8/7・11/26	日本車いすフェンシング協会	のべ40名 (うち本学学生35名)
共催事業	千葉県夢チャレンジ体験スクール「キャリア教育しごと体験キャンプ」	8/6～10	千葉県教育庁生涯学習課	中学生46名、 本学学生スタッフ8名
	パラスポの「輪」フォーラム ★	8/18	千葉県、千葉商科大学ほか	約120名 (うち本学学生7名)
	パラスポーツフェスタちば2019 ★	8/31	千葉県、千葉市、NHK	10,091名 (うち本学学生25名)
	敬愛大学パラスポーツ交流会(車いすフェンシング)	10/20	千葉市、稲毛区地域振興課、日本車いすフェンシング協会、ちば産学官連携プラットフォーム	56名 (うち本学学生5名)
	ボランティアトライアル2019 NIPPON体感! 和×話×輪 ★	12/14	千葉県、神田外語大学ボランティアセンター、生涯学習応援団ちばほか	131名 (うち本学学生9名)
	第1回いなげポッチャカップ	1/11	稲毛区地域振興課、ポッチャ同好会、千葉大学、千葉経済大学・短大	96名 (うち本学学生5名)
	大学生等のボランティア・社会貢献活動推進セミナー「千葉学生ボランティア2020」 ★	2/16	千葉市社会福祉協議会	86名 (うち本学学生6名)
教育連携事業	留学生と高校生の交流会	1/30	千葉県立君津高等学校	7名
	市立稲毛高校 グローバル企業見学会(コーディネート)	10/1	成田国際空港株式会社、市立稲毛高等学校	22名 (高校生16名含む)
大学連携事業	ちば産学官連携プラットフォーム	8/9設立	淑徳大学、帝京平成大学、千葉経済大学ほか 計11大学・短期大学	—

※☆の事業について、東京2020パラリンピック「車いすフェンシング」競技ボランティアには、学生20名が参加している。

※★の事業には、学生実行委員を各2名推薦、事前企画から参画させている。

【活動への紹介・助言を行った事業、学生を派遣した事業】

カテゴリー	事業名	時期	派遣先	のべ派遣人数
①教育支援ボランティア	通学合宿	6/16～19	八街市教育委員会、千葉敬愛短期大学	3名
	東金青年の家 ボランティアスタッフ	通年	千葉県立東金青年の家	1名
②地域活性化ボランティア	千葉県障害者スポーツ大会(陸上競技、サウンドテーブルテニス)	5/26、6/8	千葉県障がい者スポーツ協会	2名
	稲毛せんげん通りまつり	7/14・15	稲毛せんげん通りまつり実行委員会	31名
	稲毛東5丁目 納涼盆踊り大会	8/3・4	稲毛東5丁目自治会	2名
	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会 避難所開設・運営訓練	8/25	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会	5名
	レッドブル・エアレース千葉2019	9/7・8	レッドブル・エアレース・ジャパン実行委員会	4名
	第14回稲毛あかり祭「夜灯」	11/23・24	稲毛あかり祭夜灯実行委員会	21名
③災害復興支援ボランティア	台風15号被災者支援募金活動(学生有志)	9/15～30	学内(募金は鋸南町長に手渡しで届けられた)	5名
	台風19号・10月21日豪雨被害復旧支援ボランティア	10/23～11/30	佐倉市災害ボランティアセンター	のべ19名
	10/25大雨被災者支援ボランティア	12/21	千葉県山武農業事務所	1名
	大学間連携災害ボランティアシンポジウム	12/14	大学間連携災害ボランティアネットワークほか	3名
⑥オリパラ関連ボランティア	パラスポーツ大会応援イベント Go! Together!	5/25・26	千葉市オリンピック・パラリンピック調整課	7名
	大賀ハスまつり パラスポーツ体験会「ポッチャ」等	6/16・22・23	ちば産学官連携プラットフォーム、千葉市	5名
	パラスポーツ大会応援イベント Go! Together!	9/28・29	千葉市オリンピック・パラリンピック調整課	2名
	車いすラグビー体験会	12/8	ちば産学官連携プラットフォーム、BLITZ	1名

【学生が自主的に活動している事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係機関	参加人数
①教育支援ボランティア	教育ボランティアサークル Iris	通年	千葉市美浜区役所、高浜ショッピングセンターほか	-
	教育ボランティアサークル 放課後こども教室	通年	千葉市、轟町小学校放課後こども教室	-
②地域活性化ボランティア	ボランティアサークル Love and Action	通年	NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)	-
	穴川町会 盆踊り	7/27・28	穴川町会	10名
	穴川商栄会 秋祭り	10/5・6	穴川商栄会	11名
	シャルムの夕べ	8/24	シャルム西千葉自治会	62名
④大学横断型ボランティア	ボランティアサークル ちばくりん敬愛支部	通年	千葉市廃棄物対策課、千葉大学環境ISO委員会	-

敬愛大学地域連携センター

年次報告書 令和元年(2019年)度

令和2年 5月 1日 発行

編集・発行 敬愛大学地域連携センター

〒263-8588 千葉県稲毛区穴川1-5-21

TEL 043-251-6364 (直通)

FAX 043-284-2376 (直通)

URL http://www.u-keiai.ac.jp/research/renkei_center/

MAIL renkei@u-keiai.ac.jp